

学校法人 兵庫医科大学

建学の精神

社会の福祉への奉仕
人間への深い愛
人間への幅の広い科学的理解



西宮キャンパス

兵庫医科大学 兵庫医科大学病院

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
☎0798-45-6111 (代)
<https://www.hyo-med.ac.jp/> (大学)
<https://www.hosp.hyo-med.ac.jp/> (病院)
<https://www.corp.hyo-med.ac.jp/> (法人)

兵庫医科大学
健康医学クリニック
〒663-8137 兵庫県西宮市池開町3番24号
☎0120-682-701
<https://www.hyo-med-kenshin.com/>



神戸キャンパス

兵庫医療大学

〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番6
☎078-304-3000 (代)
<https://www.huhs.ac.jp/>



篠山キャンパス

兵庫医科大学
ささやま医療センター
〒669-2321 兵庫県丹波篠山市黒岡5番地
☎079-552-1181 (代)
<https://www.sasayama.hyo-med.ac.jp/>

兵庫医科大学
ささやま老人保健施設
兵庫医科大学
ささやま居宅サービスセンター
〒669-2321 兵庫県丹波篠山市黒岡36番地
☎079-552-6840 (代)
<https://www.sasayama.hyo-med.ac.jp/>

< 広報誌の送付先変更や配送停止に関するお問合せ >

【兵庫医科大学 卒業生（緑樹会会員）の方】
兵庫医科大学 同窓会緑樹会
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
兵庫医科大学 教育研究棟 3階
☎0798-45-6448（平日13:00～17:00）
✉ryokuju@hyo-med.ac.jp

【兵庫医科大学 保護者の方】
兵庫医科大学 学務部 教学課
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
兵庫医科大学 教育研究棟 2階
☎0798-45-6159（平日8:30～16:45）
✉kyo-gaku@hyo-med.ac.jp

【兵庫医療大学 卒業生の方】
兵庫医療大学 キャリアデザインセンター
〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番6
兵庫医療大学 M棟 1階
☎078-304-3100（平日8:30～17:00）
✉careerdesign@huhs.ac.jp

【兵庫医療大学 保護者の方】
兵庫医療大学 学生支援課
〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番6
兵庫医療大学 P棟 1階
☎078-304-3007（平日8:30～17:00）
✉gakuseishien@ml.huhs.ac.jp

【その他の方】
学校法人兵庫医科大学 総務部 広報課
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
☎0798-45-6655
✉kouhou@hyo-med.ac.jp

学校法人 兵庫医科大学 広報誌
兵医広報 vol.256 (2022 WINTER)
発行日／2022年1月4日
発行元／学校法人兵庫医科大学 総務部 広報課

学校法人 兵庫医科大学 広報誌

兵 | 医 | 広 | 報

2022
WINTER
vol. 256

特集

新病院棟の誕生で 兵庫医科大学病院は どうかわる？



新病院棟の誕生で 兵庫医科大学病院は どうかわる？

1972年、兵庫医科大学の附属病院として誕生した兵庫医科大学病院。
開学50周年事業の一つとして、2026年、西宮キャンパスに新たな病院棟が誕生します。
新病院棟の概要や完成後に実現するさまざまなことをご紹介します。

新病院棟誕生によってめざすこと

Human Centered Hospital 「ひと」が主役の未来型スマート病院へ

上記キャッチフレーズをきっかけ、6つの基本方針を軸に、新病院棟の誕生をめざしています。

特定機能病院としての
高度先進的かつ
安全な医療の強化

大学病院としての
医療人育成と
臨床研究機能の充実

災害拠点病院としての
救急・災害医療機能の
確保

地域中核病院としての
病診・病病連携の
さらなる推進

患者・家族にやさしく
地域住民に親しまれる
環境の整備

教職員が働きやすく
能力を発揮できる
職場環境の構築



完成イメージです

2026年5月の開院に向け 整備が進行中！

2017年に基本構想を開始し、2020年には立体駐車場とデッキ棟が完成。現在は9号館と旧立体駐車場の解体工事を進めています。新病院棟の開院後は、現在外来や医局がある建物（1、2、8号館）も解体予定です。

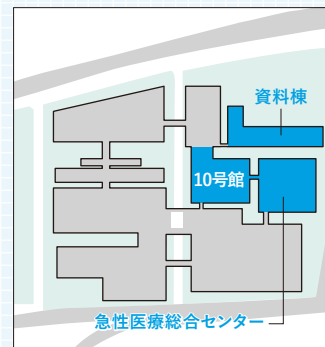
2021年～2023年
東敷地にある既存の建物を解体



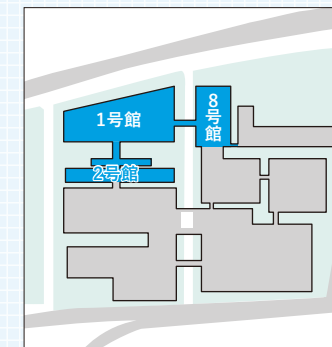
2023年～2026年
新病院棟やデッキ1などを建設



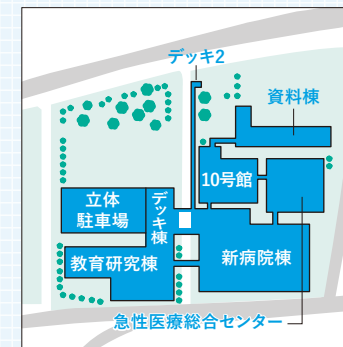
2026年～2027年
既存の建物を改修



2027年～2028年
既存の建物を解体



2028年～2029年
デッキ2を建設し、全体整備を完了



設計から読み解く
新病院棟進化のポイント

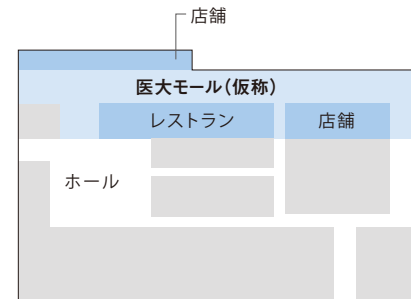
新病院棟進化の3大ポイントを徹底解剖

新病院棟は隣接する急性医療総合センターと同じ階高で計画。病院の顔となるエントランスはなんと2Fに設置されます。なぜそのような設計になっているのか？図面とともに、「新病院棟 進化の3大ポイント」を解説します。

POINT

1 教育・研究と働き方を、さらに充実。

- A** 病棟に**スタッフルーム**や**学生スペース**を設け、多職種連携を推進するとともに教育機能を充実
- B** 10号館は**職員利用エリア**を集約し、患者さんエリアと明確に分離
- C** 4つの建物を**同じ階で接続**し、診療・教育・研究機能をさらに連携
- D** **職員食堂**を武庫川が臨める眺めのいい7F東側に配置
- E** 近隣住民の方も利用しやすい「**医大モール(仮称)**」を配置



医大モール(仮称)平面図

教育研究棟と病院棟の接続、学生スペースの設置などで、学生が臨床の現場に触れる機会を増やします。また、地域に開かれた病院として、「医大モール(仮称)」にはコンビニ・レストランなどアメニティ施設を集約し、低層部(1、2F)に設けます。

POINT

2 災害発生時も、地域を守り抜く。

- F** 地震被害を最小限にとどめる**免震構造**
- G** 河川が氾濫しても機能を維持できるよう、診療機能や各玄関フロアを原則**2Fレベル以上**に設置
- H** 1Fに配置する放射線治療部の治療室には**止水対策**を行い、重要な医療機器を守る

災害拠点病院として、救急・災害医療機能の確保は重要な使命です。教育研究棟とともに西宮キャンパスの機能が維持できるよう、ハザードマップなどから想定される武庫川氾濫時の浸水高さ(最大約5m)を踏まえ、原則2F以上に診療機能を配置します。



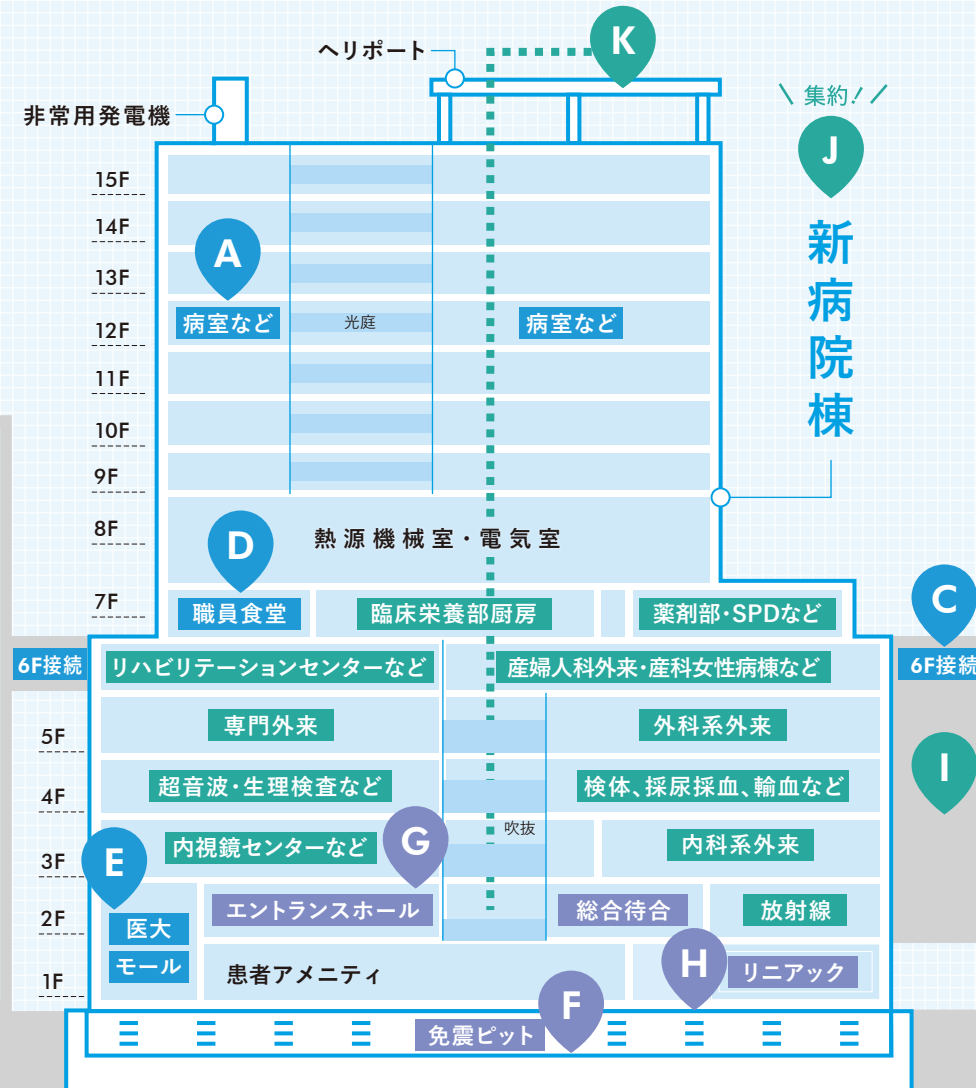
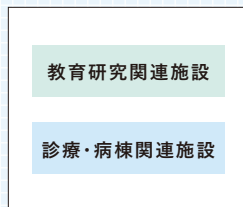
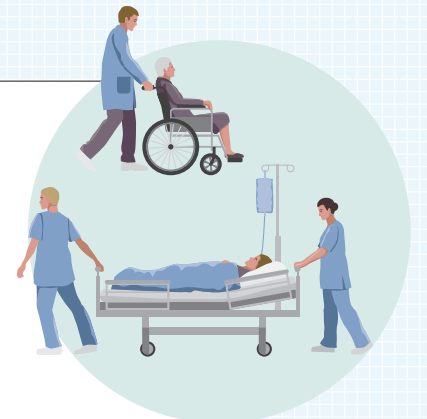
他病院リニアック室の水密扉の事例
(画像提供:株式会社久米設計)

POINT

3 より高度な医療を、より安全に。

- I** 急性医療総合センターと新病院棟の階高を合わせ、**移動をシームレス**に
- J** 分散する病棟、外来、中央診療機能などを**新病院棟に集約**
- K** 屋上ヘリポートに直結する**救急エレベーター**を設置

現在各建物に分散して設置されている病棟や外来を新病院棟に集約。医局は10号館に移ります。急性医療総合センターとも同じ階高で接続され、特定機能病院としてより高度な医療を提供できるように努めます。



6F接続

I

6F接続

B

医局

10号館

スタッフ更衣室

資料棟

さらにスケールアップ・クオリティアップする兵庫医科大学病院の今後にご期待ください！



兵 医 広 報

学校法人 兵庫医科大学 広報誌
vol.256 2022 WINTER

CONTENTS

- 01 特集 新病院棟の誕生で
兵庫医科大学病院はどうかわる？
- 06 2022年 年頭のごあいさつ
- 09 NEWS & TOPICS
 - ・大腸がん予防の可能性を秘める運動条件の一部を明らかに
 - ・WEB入試対策講座&WEBオープンキャンパス
期間限定企画を開催
 - ・世界初の2つの臨床応用結果が国際的な医学誌に同時掲載
 - ・2021年度秋季学位授与式を挙行
 - ・「ペプシコーラの開発者」を起用した広告を展開
 - ・睡眠の「質」の低下と腎機能障害の関連性を明らかに
 - ・2年ぶりとなる地域医療懇談会をオンライン形式で開催
 - ・第73回兵庫県医師会医学会で教員2名が医学研究賞を受賞
 - ・新型コロナウイルスの重症化リスクを判定できる検査機器を導入
 - ・1,000名を超える医師を対象とした大規模な横断研究の結果、
「研究公正意識の低さ」が明らかに
 - ・篤志解剖体慰霊祭を挙行
 - ・環境予防医学 若林主任教授が兵庫県科学賞を受賞
 - ・脳神経外科吉村主任教授が
「臓器移植対策推進功労者」として感謝状を授受
 - ・白衣授与式を挙行
 - ・「2021年度入学時調査」の結果を公表
 - ・シュゼット・ホールディングス様からうれしい寄贈
 - ・海皇祭を初の「オンライン形式」で開催
- 16 2021年の新型コロナウイルス対応を振り返って
- 17 卒業生 INTERVIEW
ラグビーで培った「思いやり」と「チームワーク」で
患者さんに優しく寄り添い、良質な医療を提供する
宝塚市立病院 副院長
森山 徳秀さん(兵庫医科大学1988年卒)
- 19 兵庫医科大学創立50周年特別企画
50年の歩み vol.4 2011年-2021年
- 21 のぞいてみよう 兵医の授業紹介
- 法人からのお知らせ
- 23 表彰・受賞など／人事情報
- 24 主な行事予定(2月～4月)／
兵医・萌えの会 募金状況報告
- 25 50周年募金 募金状況報告



2022年 年頭のごあいさつ

新たな年を迎えて



次の50年に向けて 大きく飛躍する年に

学校法人兵庫医科大学 理事長 たしろ ちから 太城 力良

明けましておめでとうございます。2022年の年頭にあたり、
謹んで新年の寿ぎをお慶び申し上げます。

この2年近くは新型コロナウイルスの感染対策に迫われ、兵
庫医科大学病院や同ささやま医療センターでは発熱外来を
設置し、救命センターでは重症患者を受け入れて人工呼吸器
やECMOによる診療を実施してきました。同時に、軽・中等症
患者への対応も行ってきました。

一方、大学においては感染防止のために遠隔講義を行い、
各種行事の開催も制限・禁止しました。学生にとって人生の大
きな区切りとなる卒業式や入学式についても大きな制約下で
の開催を余儀なくされ、兵庫医療大学では卒業式の開催を断
念するなど、学生のみならずご父兄や教職員にとっても非常に
残念な形となってしまったことと思います。しかし、学生や教
職員がクラブ活動の停止や多人数での会食の禁止などを遵
守してくれたお陰で、幸いにも両大学で大きなクラスターは発
生しませんでした。今後も「ワクチン接種が終わった」と安心せ
ず、気持ちを引き締めて感染防止に努めていく所存です。

さて、本法人は本年4月に開学50周年を迎えます。それを
機にUI(=University Identity)を刷新し、新たなスローガン
として「EMPOWER THE PEOPLE～心に響く医を、私たち
がいるかぎり～」という言葉掲げました。次の50年に向けて
大きく飛躍するスタートの年にするために、私たちがこれから
取り組むことが3つあります。

1つめは、兵庫医科大学と兵庫医療大学の統合による「医系
総合大学としての位置づけの明確化」です。統合は昨年8月に
文科省より認可されており、この4月から新生・兵庫医科大学、
Hyogo Medical Universityが発足します。新しいシンボル
マークでは、兵庫医科大学のイニシャルである“H”をモチーフ

に、「教育」「研究」「診療」「社会貢献」という4つの活動が重なり
合って連携する姿(円環)を表現しました。

2つめは、本年10月に予定している梅田ツインタワーズ・サウ
ス13階への「健康医学クリニックの移転開設」です。新しいク
リニックは、3テスラのMRIや64列CTをはじめとした機器を
配備し、人間ドックや一般健診に加え専門外来も整備するな
ど、西宮本院の機能を補完する能力を有しています。梅田で
は大学病院固有の長い待ち時間を解消し、患者サービスに徹
した施設をめざしますが、それだけでなく、大阪市内の医療
施設との連携も強化し、オフィスワーカーやそのご家族を中心
とした人々の健康増進、がん患者の就労支援などの面でも貢
献していきたいと考えています。

3つめは、「新病院棟の建設」です。現在は基本設計を終え
て設計に入り、2026年春の供用開始をめざしています。今利
用している病院棟は耐震や洪水、高潮対策などの面で弱点が
ありましたが、新病院棟ではこれらを解消するだけでなく、未
来の医療に対応するICT化・AI化したスマートホスピタル、感
染症対策、患者さん・教職員のアメニティなどにも配慮し、人
と環境にやさしいハートウォーミングホスピタルを構築します。

本学の輝く未来を創る決意を本学に関わるすべての人々の
間で共有し、その力を結集して、夢の実現に向けて邁進して参
りたく存じます。本年も、皆様方が健康で元気はつらつと過ご
されることを祈念するとともに、本法人のさらなる発展に向け
てご協力・ご指導をお願い申し上げます。



50周年を祝し 新大学の順調な船出を祈念して

兵庫医科大学 学長 野口 光一

皆様、明けましておめでとうございます。新しい2022年が平穏無事な年になることを祈っております。

一昨年から継続している新型コロナウイルス感染症対応では、公私ともに大きな影響を受けて参りました。本学では今後とも最大限の対策・注意を継続することで危機を乗り越えていきたいと考えています。この挨拶文を書いている時点では感染拡大が収まった状況ではありますが、学生諸君や保護者の皆様、卒業生の皆様、そして教職員一同が安らかなお正月をお迎えできていることを祈念しています。

さて、兵庫医科大学にとって、2022年はまさに大きな変革の1年であります。本学は1972年の開学から50周年を迎え、今年は記念事業とともに大きな事業も重要な局面を迎えます。兵庫医療大学との統合は昨年文部科学省の認可を受け、この4月より、兵庫医科大学は4学部を持つ医系総合大学として新たに

スタートします。また、4年後の竣工をめざす新病院棟の建設計画は実施設計の段階となり、さまざまな具体的計画が進んでいます。さらに、大阪梅田ツインタワーズ・サウス内に開設する梅田健康医学クリニックも本年秋にオープン予定です。兵庫医科大学では、次の50年を見据えて新しい動きが躍動感を持って加速化しており、皆様にもそれを体感していただけたと思います。

私は引き続き新大学の学長を務めさせていただきますが、最も重要な業務と認識しているのは、4学部の学生や保護者の皆様、全教職員が一体感や帰属意識をしっかりと持ち、誇りうる大学になれるよう、大学の進む方向性をお示しすることです。皆様とともに開学50周年を心より祝し、未来へ向けた大きな希望を持てる大学にするために努力して参ります。皆様のご理解とともに、ご支援・ご協力の程お願い申し上げます。



「50年の伝統」に 「15年の実績」を掛け合わせ

兵庫医療大学 学長 藤岡 宏幸

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、兵庫医療大学の教育・研究・大学運営などに多大なご支援を賜り本当にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

本学では新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインも活用しながら、授業全体の70%以上を対面で実施しています。また、感染状況に応じて課外活動なども実施しています。その結果、これまで大きな問題なく大学を運営することができました。これも、学生や保護者をはじめとした関係者の皆様のご理解ご協力によるところが大きいと考えます。ありがとうございます。

さて、本年4月、兵庫医科大学と兵庫医療大学は統合して、医学部・薬学部・看護学部・リハビリテーション学部の4学部、および大学院医学研究科・薬学研究科・看護学研究科・医療科学研究科の4研究科を擁する新たな兵庫医科大学としてス

タートします。

兵庫医療大学は「チーム医療」をコンセプトに掲げ、2007年に兵庫医科大学の兄弟校として開学しました。開学以来、多くの有為な医療人を輩出するとともに、教育・研究基盤も拡充し、一定の評価を得るまでに成長してまいりました。兵庫医科大学の50年の伝統に兵庫医療大学の15年の実績を掛け合わせ、今後は「兵庫医科大学神戸キャンパス」として、これまで以上に、医学部、兵庫医科大学病院、兵庫医科大学ささやま医療センターと緊密な連携を行い、質の高い薬剤師、看護師・保健師・助産師、理学療法士、作業療法士を養成していきます。

本年も引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



病院を発展させる鍵は 「one team」と「周知の徹底」

兵庫医科大学病院 病院長 阪上 雅史

皆様、明けましておめでとうございます。病院長として2年目の2021年は、新型コロナウイルス感染の第3～5波に見舞われ、感染対策を第一に病院運営を行ってきました。2020年2月から1年9カ月の間に、重点医療機関としてECMO・人工呼吸器・高流量酸素投与が必要な重症患者を174名救命し、感染症外来では2,600名以上を診察しました。病院職員2,800名中、陽性患者は34名、小規模クラスターは2件のみと、1,000床規模の病院としては珍しいほど良い成績を残せました。これも、マスクの装着や手洗い、夜の街での飲食自粛など、職員一人ひとりが医療人として高い意識を持ち続けた結果だと自負しております。

過去を振り返れば、1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の際には、第7代 岡本 栄三院長の下、医師や看護師、技師、事務、学生などが病院の復旧のために寝食を忘れて働き、西宮市の63カ所の救護施設を運営しました。当時の岡本院長

が訴え続けた「オール兵庫医大」の精神は、今もなおコロナ感染対策の“one team”の精神として受け継がれています。今後も続くであろう感染対策はもちろん、病院の収支差改善、そして新病院の建設に向かって、2022年も全職員がone teamで頑張っていく所存です。

病院がone teamになるためには情報の共有が必須であり、「周知の徹底」が重要です。私も自らメーリングリストやグループウェアなどを活用し、時には部署や個人に直接メールなどで周知を徹底してきました。そうした小さな改革を積み重ねた結果、新型コロナウイルス1年目だった2020年の収支差の落ち込みは最小限に抑えられ、2021年の収支差はコロナ前の2019年を上回るペースです。厳しい状況は続きますが、今後も周知の徹底を続けてone teamを強固にして参ります。ご期待ください。

最後に、2022年の皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。



デジタル化で 地域医療の新たなスタイルをめざす

兵庫医科大学 ささやま医療センター 病院長 片山 寛

新年明けましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症のパンデミックが始まって2回目の新年を迎えますが、これまで篠山キャンパスでは「篠山モデル」を積極的に展開して感染症から地域を守ってきました。具体的には、保健所を介さない病診連携による検査体制を構築し、早期診断および医療介護施設への感染流入防止に取り組む一方で、圏域の全戸に「発熱時相談チェックシート」を配布し、住民参加型でまん延の防止に取り組んできました。その結果、第4波の際に兵庫県内各地で死亡率が高まる中、丹波圏域は高齢者の感染を県下で最も低いレベルに抑えることができました。また、保健所と連携することで感染者のメディカルチェックを行い、入院や宿泊療養を適切に提供できる体制を実現しました。さらに、抗体治療薬を用いた重症化予防の治療により、病診連携で早期診断・早期治療ができる体制づくりにつながっています。

一方、当院では地域連携のデジタル化にも力を入れています。患者さんがスマートフォンを使って来院前に問診が行える「AI問診」をはじめ、新型コロナウイルス感染症の情報連携を目的に、検査結果や処方が管理できるPHR(Personal Health Record: 個人健康記録)システムを丹波篠山市の支援で導入しました。今後はこのシステムを医療機関のEHR(Electronic Health Record: 電子健康記録)システムと接続することで、住民の皆さんの健康管理や病診連携、多職種連携などに活用していきます。また、将来的には「電子母子手帳」「電子お薬手帳」との接続や「人生会議機能」の実装も計画しています。

PHRは患者さん中心の健康医療情報システムですので、ヘルスケアの地域化や包括化、生活モデル化という篠山モデルの実現に有用と考えています。新型コロナウイルス感染症を契機に、こうしたデジタル化で地域医療の新しいスタイルの実現をめざしていきます。

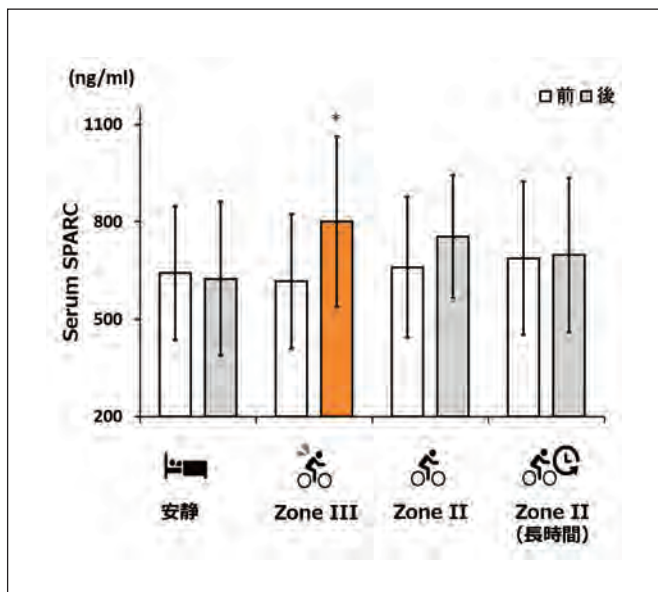
医療大

大腸がん予防の可能性を秘める運動条件の一部を明らかに ～リハビリテーション学部と看護学部の共同研究～

兵庫医療大学 リハビリテーション学部、看護学部を中心とした研究グループ(研究代表者:リハビリテーション学部 理学療法学科 宮本 俊朗准教授)は、大腸がん予防の可能性を秘める運動条件の一部を明らかにしました。

大腸がんや乳がん、サルコペニア、認知症などに対する運動の予防効果が期待されるマイオカインの一つであるSPARCについて、その分泌につながる運動条件まではこれまで明らかになっていませんでした。本研究では、血清SPARC濃度は高度の有酸素運動のみに上昇することや、SPARC濃度の上昇には運動で生じる乳酸が関連することを示しました。

本研究内容は、2021年8月1日、スポーツ・健康科学分野の学術誌「European Journal of Sport Science」に掲載されました。



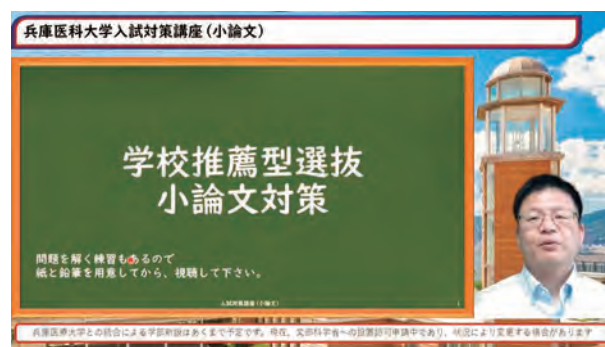
分析データ

医療大

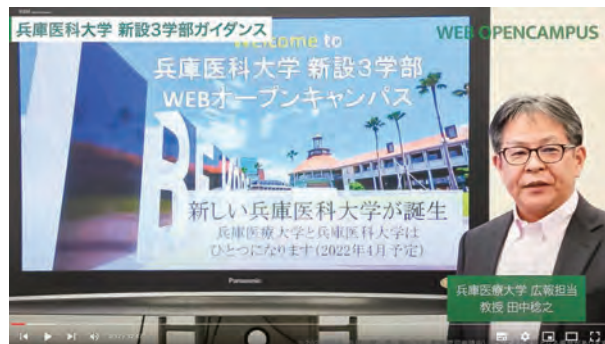
WEB入試対策講座&WEBオープンキャンパス 期間限定企画を開催

兵庫医科大学 神戸キャンパスは、「WEB学校推薦型選抜入試対策講座」と「WEBオープンキャンパス期間限定企画」を2021年8月7日から9月26日までオンライン上で開催しました。両イベントは、事前に申し込みのあった高校生・受験生に向けてそれぞれ限定動画として配信したものです。

WEB学校推薦型選抜入試対策講座では、大手予備校講師による英語・数学・化学の受験対策講座と、教員による小論文対策が学べる動画を配信。WEBオープンキャンパス期間限定企画では、各学部学科の教員や在学生による学部学科ガイダンスや、キャンパスライフ紹介などを配信しました。



WEB学校推薦型選抜入試対策講座(小論文対策)の様子



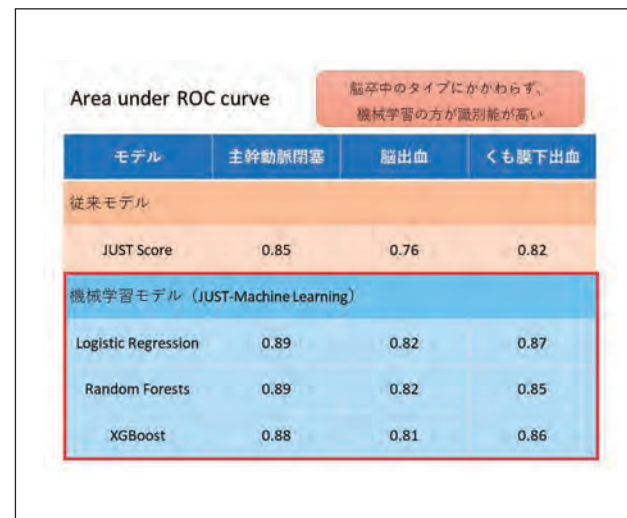
WEBオープンキャンパス期間限定企画(新設3学部ガイダンス)の様子

医科大

世界初の2つの臨床応用結果が国際的な医学誌に同時掲載 ～脳卒中の可能性がある患者さんを病院搬送前に診断できる「JUST Score」～

兵庫医科大学 脳神経外科学 吉村 紳一主任教授、臨床疫学 森本 剛教授らの研究グループは、2018年7月、早期に専門的治療を要する脳卒中の疑いがある患者さんを、救急隊員などが適切な治療施設へ直接搬送することができるように、病型予測を瞬時に行える病院前脳卒中病型判別システム「JUST Score」を開発しました。

今回、「JUST Score」について「地域データをリアルタイムに自動化(AI化)できる機械学習モデルの開発」と「脳卒中の発症から治療までの時間短縮効果の実証」を実現させ、これらの2つの研究論文が国際的な医学誌「Translational Stroke Research」(2021年8月14日)と「Journal of NeuroInterventional Surgery」(2021年8月19日)にそれぞれ掲載されました。



「JUST Score」の診断精度について

医療大

2021年度 秋季学位授与式を挙行政

2021年9月18日、兵庫医療大学オクタホールにて「2021年度 兵庫医療大学秋季学位授与式」を挙行政し、薬学部医療薬学科の卒業生30名、大学院 看護学研究科の修了生1名が参加しました。

当日は、藤岡学長による式辞のあと、卒業生・修了生一人ひとりに対して学位記が手渡されました。



学位記授与の様子

医療大

「ペプシコーラの開発者」 を起用した広告を展開

兵庫医科大学では、2022年度から薬学部が新設されることを受け、2021年7月1日より「この人も薬剤師？」シリーズ広告を展開しています。

第1弾では「徳川 家康」、第2弾ではミステリー作家の女王「アガサ・クリスティ」のビジュアルを使用した広告を掲出していましたが、9月27日からは新たに「ペプシコーラの開発者」にスポットをあてた第3弾広告を展開しました。第3弾広告は、阪神電鉄、神戸市営地下鉄、北大阪急行の各車内ドア横にて、11月1日まで掲出しました。



「この人も薬剤師？」シリーズ第3弾広告

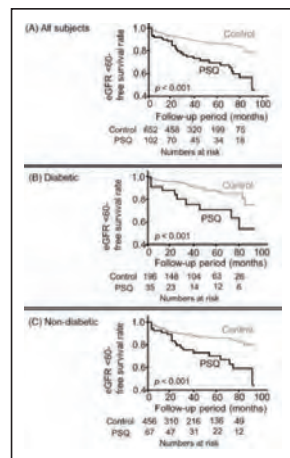
医科大

睡眠の「質」の低下と腎機能障害の関連性を明らかに

兵庫医科大学 糖尿病内分泌・免疫内科学 角谷 学講師、小山 英則主任教授らの研究チームは、慢性腎臓病（CKD）未発症の糖尿病患者において、睡眠の「質」の低下と自律神経機能障害が腎機能低下と関連することを明らかにしました。

本研究は、Hyogo Innovative Challenge事業の一環で行われたもので、2021年9月24日、Natureグループの国際科学雑誌「Scientific Reports 2021」に掲載されました。

分析データ



医科大

2年ぶりとなる地域医療懇談会をオンライン形式で開催

2021年10月9日、医療従事者を対象とした「第20回 地域医療懇談会」をオンライン形式で開催しました。

兵庫医科大学病院では、地域の医療機関同士の連携体制を深めるため、毎年「地域医療懇談会」を開催しています。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となりましたが、今年度は実施形式を対面からオンラインに変え、2年ぶりに懇談の場を設けました。

当日は、最新の診療情報などに関する講演を行い、50名の方にご参加いただきました。



オンラインセミナーの様子

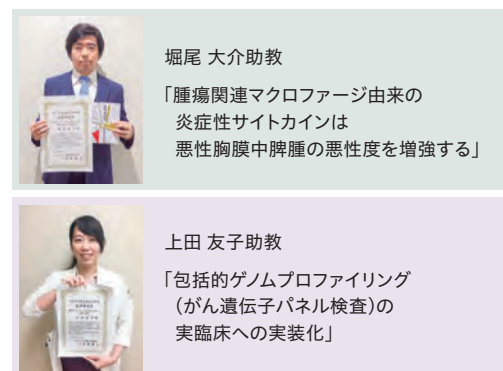
医科大

ささやま

第73回兵庫県医師会医学会で教員2名が医学研究賞を受賞

2021年10月17日、「第73回兵庫県医師会医学会」がオンラインで開催され、兵庫医科大学 呼吸器・血液内科学 堀尾 大介助教と産科婦人科学 上田友子助教が医学研究賞を受賞しました。当日は、表彰の後にそれぞれ右の演題で受賞講演を行いました。

また、「地域で支えるCOVID-19の診療」をテーマとしたシンポジウムにはささやま医療センター 片山 覚病院長が登壇し、「COVID-19に対する丹波篠山市医師会の取り組み～予測致死率と致死率の比較による検討～丹波篠山市医師会」の演題で講演を行いました。



堀尾 大介助教

「腫瘍関連マクロファージ由来の炎症性サイトカインは悪性胸膜中脾腫の悪性度を増強する」

上田 友子助教

「包括的ゲノムプロファイリング（がん遺伝子パネル検査）の実臨床への実装化」

医療大

9/28

株式会社エイチ・アイより顔認証型サーマルカメラなどが寄贈されました。今後、来学者の体温確認などで活用します。



大学病院

9/28

「高齢者のがん治療における認知症・せん妄への対応」をテーマに「がんプロセミナー」をオンラインで開催し、72名が参加しました。



学校法人

9/30

「もし兵庫医科大学がSNSを活用するならば」をテーマに、SNS活用に関するセミナーを行い、教職員など44名が参加しました。



ささやま

10/2

篠山キャンパス周辺の環境整備に教職員など88名が参加し、伸び放題となっていた雑草の草刈りなどを行いました。



ささやま

新型コロナウイルスの重症化リスクを判定できる検査機器を導入

2021年9月7日、丹波篠山市が「新型コロナウイルス感染症の自宅療養者らと市内の医療機関が症状などの情報を共有できる電子システム」と「重症化リスクを判定する全自動免疫測定装置」の導入を発表しました。同電子システムと装置はささやま医療センターに配置され、重症化リスクの判定検査は同日から開始しました。

電子システムは、主に自宅療養中や退院後の患者さんの利用を想定しています。患者さんが自宅で測定した血圧や酸素濃度などを専用アプリで入力すると、本院で管理する電子カルテと照合されます。患者さんの入院時の情報やその後の経過は本院を含む市内の各医療機関に共有され、状況に応じて適切な治療方法や診療先を検討することができます。

また、重症化リスクの判定においては、血液中の特定たんぱく質の数値を測定しますが、今回導入する「全自動免疫測定装置」によって、これまで数日かかっていた結果の判定が約20分でできるようになりました。

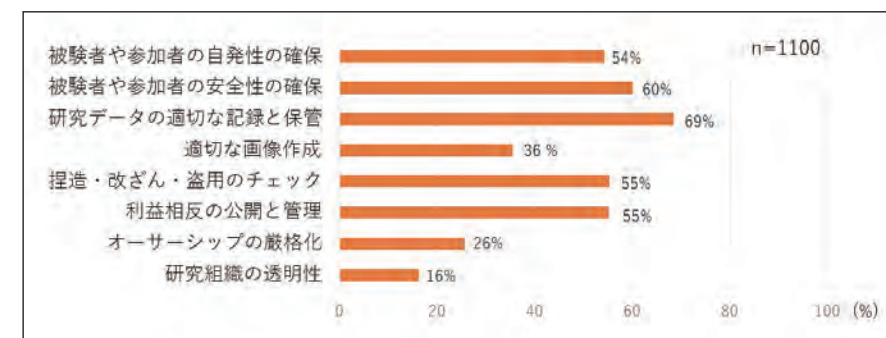


医科大

1,000名を超える医師を対象とした大規模な横断研究の結果、「研究公正意識の低さ」が明らかに

兵庫医科大学 臨床疫学 森本 剛教授らの研究グループは、2020年3月、日本全国で臨床研究を実施している1,100名の医師を対象に大規模な横断研究を行い、「多くの医師は受動的に研究公正に関する教育を受けていること」「普段の研究活動において研究公正を意識している医師は半数程度であること」などを明らかにしました。

本研究内容は、2021年10月22日、英国医師会雑誌「BMJ Open」の電子版に掲載されました。



医師1,100名における「研究公正の意識」

医科大

篤志解剖体慰霊祭を挙行

2021年10月19日、「2021年度 兵庫医科大学篤志解剖体慰霊祭」を挙行了しました。同慰霊祭は、2020年10月1日から2021年9月30日までの間に篤志解剖体として自らの身を献じられた方々の御霊に感謝し、ご冥福をお祈りすることを目的に行われたものです。

当日はご遺族の方々をはじめ、学生や教職員など合わせて約300名が参列しました。72柱の御霊に対して黙祷を捧げ、学長・病院長による慰霊の詞、学生代表による謝意の詞の後、参列者による献花を行いました。

※医学教育・医学研究への深い理解と崇高な篤志の上にご協力いただきましたご献体に関して、本来なされるべきご遺族への連絡およびご遺骨の返還がなされていなかった事案が判明し、11月25日、公式サイト上にて詳細な経緯等を報告しました。ご献体いただいた方々、ご遺族の皆様には心より深くお詫び申し上げます。本学ではこの度の不手際を深く反省し、今後二度とこのようなことが起きないよう、再発防止に取り組んでまいります。



慰霊祭の様子

医科大

環境予防医学 若林主任教授が兵庫県科学賞を受賞

2021年11月9日、兵庫医科大学 環境予防医学 若林 一郎主任教授が「令和3年度 兵庫県科学賞」を受賞しました。

「兵庫県科学賞」は、科学技術の研究に熱心な者で、その研究成果が科学技術の向上に著しく寄与すると認められるものに兵庫県知事から贈られる賞です。

若林主任教授は、これまで脈管疾患を専門に研究活動を行い、細胞内アルカリ化の意義の解明や、糖尿病や敗血症などのさまざまな疾患における脈管反応性の新たな異常の発見をしてきました。また、動脈硬化のリスクと生活習慣との関係についても多くの新知見を発表し、丹波篠山市の疫学研究で地域住民の健康増進、動脈硬化予防に貢献したことなどが評価され、今回の受賞につながりました。

医科大

脳神経外科吉村主任教授が「臓器移植対策推進功労者」として感謝状を授受

2021年10月24日、兵庫医科大学病院 脳神経外科 吉村 紳一主任教授が「臓器移植対策推進功労者」として、厚生労働大臣から感謝状が贈られました。

吉村主任教授は、日々の臨床現場で多数の臓器移植に関わり、医療従事者向けのシンポジウムなども開催してきました。また、腎灌流カテーテル^{じんかんりゅう}の改良を提案し、器具の開発に携わるなど、長きにわたって臓器移植の推進に尽力したことが評価され、同感謝状を授受しました。

感謝状は兵庫医科大学病院に送付され、阪上病院長から吉村主任教授へ手渡されました。



左：阪上病院長、右：吉村主任教授

医科大

白衣授与式を挙行～臨床実習を目前に決意新たに～

2021年11月10日、兵庫医科大学では臨床実習に臨む4年次生を対象とした白衣授与式を挙行了しました。

同式典は、学生に医師となる意識を高めてもらうため、2008年から毎年実施しているものです。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり学生のみ参加でしたが、今年度は感染症対策を徹底したうえで、2年ぶりに保護者の方の参加も含めた形で開催となりました。

当日は、現役の医師でもある教員から学生へ名入りの白衣の授与や、医師の職業倫理を示した「ヒポクラテスの誓い」の唱和などを行いました。



白衣授与の様子



医科大

「2021年度入学時調査」の結果を公表
～コロナ禍以前と比較して「人を救う仕事」への関心度が上昇～

兵庫医科大学は、2021年4月に第1学年次を対象に実施した「入学時調査」の結果を公表しました。同調査は、学生の学修状況や入学時の気持ち・意識について把握し、教育改善などに活用することを目的に行っているものです。

「兵庫医科大学を志望した理由」では、約半数の学生が「立地の良さ」「医師国家試験の合格率高い」「施設・設備の良さ」を挙げました。また、「医師を志したきっかけ」については前回調査を行った2019年度と比較して、「人を救う仕事に興味を持って」の回答が60.7%から71.3%に上昇するなど、コロナ禍以前と以後で入学生の意識に変化が見られたことが分かりました。

▶調査結果の詳細は、兵庫医科大学WEBサイトをご覧ください。
<https://www.hyo-med.ac.jp/news/20211008-01.html>

◆「2021年度入学時調査」結果の一部抜粋

Q 兵庫医科大学を志望した理由は？

立地の 良さ	医師国家試験の 合格率高い	施設・設備の 良さ	自宅から 通学できる
50%	49.1%	49.1%	43.5%

Q 医師を志したきっかけは？

人を救う仕事に 興味を持って	家族や身近な人が 医療業界で働くのを見て	病気や怪我、死などを 身近に経験して
71.3% (60.7%)	54.6% (54.1%)	29.6% (26.2%)

※カッコ内は2019年度の調査結果

医科大

10/8

卒前・卒後のシームレスな評価をめざして、東京医科歯科大学の山脇 正永教授による「EPOCを用いた臨床能力評価」に関するセミナーを開催しました。



医科大

10/23

「後援会総会・保護者懇談会」を開催しました。懇談会では野口学長による挨拶と、鈴木副学長・成瀬医学教育センター長による講演を行いました。



ささやま

11/17

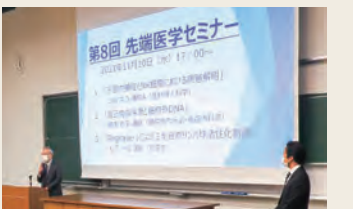
コロナ禍でもご自宅で栄養満点の食事を楽しんでいただけるよう、WEBサイトで臨床栄養室が作成したレシピ動画を公開しました。



医科大

11/10

「第8回 兵庫医科大学先端医学セミナー」を「アレルギー・免疫」のテーマで開催し、教職員・大学院生71名が参加しました。





シュゼット・ホールディングス様からうれしい寄贈 ～Jリーグ・ヴィッセル神戸の選手からの激励動画も～

2021年11月15日、洋菓子ブランド「アンリ・シャルパンティエ」を展開する株式会社シュゼット・ホールディングス様が、当院で勤務する医療従事者への感謝の気持ちをこめて、同社のお菓子を寄贈してくださいました。

今回の寄贈は、同社が企画した「スイーツアクション2021」(※)の一環として行われたもの。お菓子の他、Jリーグ・ヴィッセル神戸の選手による「激励メッセージ動画」や「メッセージパネル」などもいただきました。

※スイーツとサッカーの力をもって最前線で戦う医療従事者へエールを送る企画



観戦サポーターの皆さんや選手が感謝の言葉を綴った「メッセージパネル」



かいきょうさい 海梟祭を初の「オンライン形式」で開催

2021年12月11日、第13回兵庫医療大学大学祭「海梟祭^{はやて} (颯～Visiting Old, Learn New～)」をオンラインにて開催しました。テーマの「颯」には、兵庫医科大学と統合するにあたり、兵庫医療大学から兵庫医科大学へ吹く新たな風に乗ろうという意味を込め、「Visiting Old, Learn New (温故知新)」には、積み重ねてきた本学での歴史を大切に、未来へと活かしていこうという思いが込められています。

新型コロナウイルス感染症の影響によってさまざまな活動が制限された中でしたが、脱出ゲームやクラブの発表、フォトコンテストやビンゴ大会など、オンラインでも楽しめるコンテンツを披露し、兵庫医療大学として最後の大学祭を無事に執り行うことができました。



藤岡学長と大学行事実行委員会代表(右)・副代表(左)



ビンゴ大会の準備風景



11/26・27

大学の在り方を知ること、幹部教員としてのリーダーシップを養うことを目的に幹部教員FDを実施し、教員22名が参加しました。



12/7

「第49回実験動物慰霊祭」を挙行し、動物実験に携わる教職員および学生が参列。実験動物の御霊に哀悼の意を捧げました。



2021年の 新型コロナウイルス対応を振り返って

2021年も引き続き新型コロナウイルスとの戦いが続き、ワクチン接種や変異株の流行などさまざまな出来事がありました。その間、兵庫医科大学病院の医療現場ではどんなことが起きていたのか、感染制御部の医師と看護師にインタビューしました。
(※取材は2021年11月に実施)



刻々と変化する状況に、柔軟な対応を

兵庫医科大学病院 感染制御部 部長 中嶋 一彦

2021年は状況に応じた変更を迫られる場面が多々ありました。特に、春の第4波では阪神間の他院から重症患者の受け入れ要請が殺到し、対応に難渋しました。そのため、5月には中等症以下の患者さんを対象とした「コロナ対応病床」を新たに設け、医療体制の確保に努めました。

また、同時期に始まったのがワクチン接種です。多職種でワーキンググループをつくり、適切な実施方法を模索しました。当初はワクチン関連の情報が全くなかったため不安もありましたが、何度もシミュレーションを行い、一日200～300名の接種を滞りなく行うことができました。この経験は、住民接種や他施設の職域接種への職員派遣時にもノウハウとして生かされたと思います。

9月には院内でクラスターが発生し、当該病棟の入院を一時停止する事態となりましたが、抗体カクテル療法によって患者さんがすみやかに症状の改善を得られたのは何よりでした。また、前述のコロナ対応病床で陽性者の明確な隔離と治療が行えたこともあり、疫学的にも最短で当該病棟の再開にこぎつけることができました。

現在は、新たな治療法や薬剤の情報をインプットし、最適な活用方法を検討しています。ひと月で状況はどんどん変わっていきますが、院内・院外にかかわらず、基本的な感染対策を根気強く続けることを呼びかけていきたいです。

各部門のプロフェッショナル達が一丸となって戦ったコロナ禍2年目

兵庫医科大学病院 感染制御部 副部長 一木 薫

急激に感染者が増えた2021年3月末頃、患者さんの受け入れすら困難な状況に「日本の医療はどうなってしまうのだろう…」と恐怖を感じました。同時期に院外の高齢者施設への指導業務やワクチン接種対応もあったため、忙しさの波に溺れそうになりましたが、各部署の協力のおかげでなんとか乗り越えることができました。

ワクチン接種対応で特に意識したのは、「ワンウェイで人が交差しない動線づくり」です。入念なシミュレーションのおかげで、想定外のことは起こりませんでした。また、当時はワクチンの廃棄問題が各所で問題になっていましたが、本院では薬剤部や保健管理室が中心となって、

廃棄を出さないように徹底的な管理、調整に努めました。

9月の院内クラスター発生時は、多くの職員が自宅待機となり、各病棟に要請してスタッフを派遣してもらいました。事務部門やPCR検査を行う検査室の職員も毎日遅くまで対応にあたってくれましたが、誰一人文句も言わずにそれぞれの業務に取り組んでくれました。

色んな人から「大変でしたね」と声をかけられますが、大変なのはみんな同じですし、これが仕事ですから、苦労したとは思っていません。コロナ禍で身についた感染対策の習慣が、今後、アフターコロナの世界においても風土として根づくことを願っています。

